

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	活動内容によっては少し狭いと感じているが、運動によって場所を変え、工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切である	子どもの利用人数に合わせて職員を配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	お知らせコーナーを作り、掲示物にて保護者に伝えている。情報伝達の際は特性に応じて絵カードやホワイトボードを用いるなど工夫している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎日掃除を行っている。 ・ 道具の使用後など定期的に消毒を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	毎日のミーティングで話しあい、記録もしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	ミーティングで改善出来るよう話し合いを行っている。保護者からの要望や連絡事項は忘れぬよう個人のバインダーにメモを貼り、職員間で情報共有している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	ホームページに記載している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価は現在行っていない。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	定期的に社内研修を行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	カンファレンスを行い、子どもの現在の姿や課題などを職員間で共有している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	モニタリングにて、保護者から最新の状況を聞いている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	カンファレンスやモニタリングを通して、子どもに適切な支援内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	計画にある目標をミーティング時に確認し、目標に沿ったメニューを決めて取り組んでいる。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	毎回ミーティング時に指導員全員で話し合い、プログラム内容を決めている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	研修を通して新しい運動を学んだり、職員それぞれでアイデアを出し合い、メニューを決めている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	保護者の要望や子どもの姿に沿って目標を作成し、適宜個別メニューや集団活動を取り入れている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	毎回ミーティング時に職員間で内容を共有し、役割を決めて分担している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	ミーティング時にその日の子どもの様子や関わりを共有し、次回に繋がるよう話し合いを行っている。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	一言情報にその日の運動内容や子どもの様子を記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者と面談やモニタリングを行っている。また、職員全体に情報を共有したうえでミーティングや計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	必要に応じて担当者会議を行う。現在は行っていない。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	保護者を通して他事業所の様子を伺い、連携がとれるように行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	現在医療的ケアが必要な子どもがいないため、行っていない。必要に応じて対応する。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	現在医療的ケアが必要な子どもがいないため、行っていない。必要に応じて対応する。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	保護者を通して他事業所の様子を伺い、連携がとれるように行っている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	現在行っていないが、必要に応じて対応する。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	フィードバック時や受け入れの際に毎回、お子様の様子を聞くようにしている。その後ミーティング時に職員間で共有し話し合っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	相談・質問を受けた場合は、その都度対応している。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	契約時に書類を用いて、説明している。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	書面にし、保護者へ詳しく説明を行い、その後同意をいただいている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	相談・質問を受けた場合は、その都度対応している。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	相談・質問を受けた場合は、その都度対応している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	必要に応じてお知らせやPOPを提示している。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

	38	個人情報の取扱いに十分注意している	個人情報に記載されている書類はシュレッダーで処理をし、書類などの管理に注意している。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	情報伝達のためにジェスチャーや筆記でコミュニケーションをとっている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	不審者が来た時に職員がどのように対応をするか共有している。また子どもには紙芝居や絵カードを用いて、分かりやすく説明をしている。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	職員間でどのように対応をするか共有している。また子どもには紙芝居や絵カードを用いて、分かりやすく説明をしている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	いつでも確認できるよう個人ファイルに資料があり、児童名簿に情報をまとめている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	食事提供をしていないため、該当しない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ささいなことでもヒヤリハットを作成し、ミーティング時に職員間で共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待に関しての研修機会を設け、情報共有している。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	契約時に身体拘束同意書を用いて説明、同意をいただき支援計画にも記載している。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 東川口教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

		チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	10					
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	9			1		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10				ホワイトボードの掲示で先生や活動の写真を実際に貼り付けていることで、視覚情報で分かりやすいと思いました。ありがとうございます。	子どもたちにとって分かりやすく、見やすい環境設定を心がけております。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	10				適宜、アルコール消毒をして安心しています。	感染対策のため、定期的に消毒を行っております。
適切な支援の提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	10					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	8			2		
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9			1		
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	9			1		

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 東川口教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

保護者への説明等	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	2		3	5		事業所内においては交流はございません。
	10	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	10					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	9			1		
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	4		2	4	ペアトレはあるんですか？	個別で対応させていただいております。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	10				送迎時に発育状況を伝達していただき、安心しています。タブレットは動きが分かりやすく、本人の様子を見ることができ嬉しいです。	タブレットを用いて、実際の運動の様子など分かりやすくお伝えできるように工夫しております。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8			2	最近通い始めたため、分かりません。	ご希望に応じて、対応しております。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2		5	3	最近通い始めたため、分かりません。	保護者会などは行っておりませんが、今後検討させていただきます。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	8			2		
17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	8			2			

保護者からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 東川口教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	5	1	4	行事予定を玄関の掲示板に貼りだしてあり、分かりやすいです。	随時更新しておりますので、ご確認いただけますと幸いです。	
	19	個人情報の取り扱いに十分注意されているか	8		2	何をもって判断すべきか不明	契約時に個人情報使用同意書を用いてご説明させていただいております。
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	7		3	・防犯マニュアルは良い経験になりました。 ・月2回の利用ですが行う機会がありますか？	・イラストなどを利用し、分かりやすくお伝えしております。 ・事前にLINEや掲示板にて開催期間をお知らせしております。契約曜日以外でもご参加可能でございます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7		3	月2回の利用ですが行う機会がありますか？	事前にLINEや掲示板にて開催期間をお知らせしております。契約曜日以外でもご参加可能でございます。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	10			誰先生がいるか今日はTAKUMI?と療育前後に聞いてきます。	ありがとうございます。今後も楽しく通っていただけるよう、努めていきます。
	23	事業所の支援に満足しているか	10				

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

		チェック項目	改善目標や工夫している点
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	活動内容によっては少し狭いと感じているが、運動によって場所を変え、工夫をしている。
	2	職員の配置数は適切である	子どもの利用人数に合わせて職員を配置している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	<ul style="list-style-type: none"> ・入り口やトイレに段差があるため、完全にバリアフリー化はされていない。 ・エレベーターが設置されている。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	毎日のミーティングで話しあうとともに記録もしている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	ミーティングで改善出来るよう話し合いを行っている。保護者からの要望や連絡事項は忘れぬよう個人のバインダーにメモを貼り、職員間で情報共有している。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	ホームページに記載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	第三者評価は現在行っていない。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	定期的に社内研修を行っている。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	カンファレンスを行い、子どもの現在の姿や課題などを職員間で共有している。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

適切な支援の提供	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	モニタリングにて保護者から最新の状況を聞いている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	毎回ミーティング時に指導員全員で話し合い、プログラム内容を決めている。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	研修を通して新しい運動を学んだり、職員それぞれでアイデアを出し合い、メニューを決めている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	休日や長期休暇等に運動や創作のイベントを開催している。また、季節に応じて学校で取り組まれているだろう内容を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	保護者の要望や子どもの姿に沿って目標を作成し、適宜個別メニューや集団活動を取り入れている。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	毎回ミーティング時に職員間で内容を共有し、役割を決めて分担している。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	ミーティング時にその日の子どもの様子や関わりを共有し、次回に繋がるよう話し合いを行っている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	一言情報にその日の運動内容や子どもの様子を記録している。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	定期的に保護者と面談やモニタリングを行っている。また、職員全体に情報を共有したうえでミーティングや計画の見直しを行っている。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ て支援を行っている	総則の基本活動の中の「地域交流の機会」については、時間 的な制約やプログラムの特性から行えていないが、それ以外 は、子ども一人ひとりのサービス計画に沿って、基本活動 (自立支援・日常生活の充実のための活動等)を複数合わせ て行っている。
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にそ の子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参 画している	必要に応じて担当者会議を行う。現在は行っていない。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交 換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送 迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に 行っている	保護者との連携を取り、トラブルが起きないようにしてい る。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、 子どもの主治医等と連絡体制を整えている	現在医療的ケアが必要な子どもがいないため、行っていな い。必要に応じて対応する。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こど も園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と 相互理解に努めている	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から 障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それ までの支援内容等の情報を提供する等している	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター 等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	自治体等で開催されている研修に該当者は参加している。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいの ない子どもと活動する機会がある	現在は交流の機会はない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加してい る	現在参加していないが、必要に応じて参加していきたい。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	フィードバック時や受け入れの際に毎回、お子様の様子を聞くようにしている。その後ミーティング時に職員間で共有し話し合っている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	相談・質問を受けた場合は、その都度対応している。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	契約時に書類を用いて説明している。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	相談・質問を受けた場合は、その都度対応している。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	現在行っていないが、必要に応じて対応する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	苦情などがあった場合、速やかに職員全体に周知し、共有するようにしている。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	必要に応じてお知らせやPOPを提示している。
	35	個人情報に十分注意している	個人情報に記載されている書類はシュレッダーで処理をし、書類などの管理に注意している。
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	情報伝達のためにジェスチャーや筆記でコミュニケーションをとっている。
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	現在行っていないが、必要に応じて対応する。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

2022年度

事業所名 東川口教室

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	不審者が来た時に職員がどのように対応をするか共有している。また子どもには紙芝居や絵カードを用いて、分かりやすく説明をしている。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	職員間でどのように対応をするか共有している。また子どもには紙芝居や絵カードを用いて、分かりやすく説明をしている。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	虐待に関しての研修機会を設け、情報共有している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	契約時に身体拘束同意書を用いて説明、同意をいただき支援計画にも記載している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	食事提供をしていないため、該当しないが必要に応じて対応する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	ささいなことでもヒヤリハットを作成し、ミーティング時に職員間で共有している。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 東川口教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

		チェック項目	A	B	C	D	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	18	2			人数相応。	ご意見ありがとうございます。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	18			2		
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	16	1		3		
適切な支援の提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画※ i が作成されているか	20				活動時間が短いため、絞り込んでお伝えしています。活動時間がもっと長かったら更に良いです。	現在は1時間の療育時間で行っております。申し訳ございません。
	5	活動プログラム※ ii が固定化しないよう工夫されているか	20				優先順は下がるものの、マットと組み合わせてほしいです。	感染対策など考えながら活動内容を考えさせていただいております。少人数の時間などで入れさせていただきます。
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	4	3	9	4	・ 当方へのサービス対象外との認識。 ・ 個人的には求めていません。	地域交流は現在は行っていません。ご意見ありがとうございます。
保護者への説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	20					
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	19	1				
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	18		1	1		
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	2	2	9	7	・ 当方へのサービス対象外との認識。 ・ 実施は難しいと思います。求めています。	・ 保護者会などは現在は行っていません。 ・ 必要に応じて、今後検討していきます。
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	10	2		8	まだ苦情などの事例がないので分かりません。	ご意見ありがとうございます。今後そういったことがあった場合、迅速に対応させていただきます。

保護者からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

事業所名： TAKUMI 東川口教室

2022年度期

A：はい B：どちらともいえない C：いいえ D：わからない

	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	20				
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	12	2		6	不定期だが細めにご案内を頂いています。 引き続きご案内していきます。
	14	個人情報に十分注意しているか	18	1		1	
非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	20				
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	16	1		3	
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	19	1			
	18	事業所の支援に満足しているか	20				

※ i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

※ ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。